

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

ワンマン化・駅無人化撤回を

水戸線ワンマン運転 岩瀬駅・ホームとの段差で車いす転倒 乗客がけが

今年3月ダイ改で5両編成のワンマン運転とされたJR水戸線・岩瀬駅で7月23日20時14分頃、車いすの乗客が転倒して怪我をする重大事故が起きました。

偶然乗り合わせた運転士が看護

岩瀬駅はJR東日本ステーションサービスに業務委託されています。駅員がいる時間は午前7時35分〜午後4時35分で事故が起きた夜は駅員はいませんでした。

車いすの乗客は自分で車いすを押し上げて乗車しようとしたが、バランスを崩して倒れてしまいました。激痛のため身体が動かずドア付近で倒れたままでした。



列車との段差が大きい岩瀬駅のホーム

たまたま列車に乗り合わせた運転士がいたため看護できたものの男性は鎮痛剤を飲んでもなかなか痛みがおさまりませんでした。その状態まま駅員がいる友部駅まで乗

り合わせの運転士が付き添いました。

ワンマン・無人駅では対応できない

会社は事故を受けても「運転士一人で十分対応できる」としています。しかし、今回はたまたま運転士がもう一人乗り合わせていたから対処できたに過ぎません。運転士一人で対応できないことは明らかです。

以前から職場では、「岩瀬駅はホームに段差があつて車いすでは乗車できない」「駅員がいないので対応できない」という声が運転士や車掌から上がっていました。

水戸線ワンマン化に対しては、沿線住民からも「監視カメラだけの安全確認では安心して乗車できない」「スイカが買えない」「駅無人化と言つてもトイレまでなくすなんて。駅に来た人はみんな困っている」といった不安や抗議の声があがっています。

融合化・要員削減に反対の声を

JRはワンマン化や駅要員の合理化・無人化、乗務員と駅の融合化など、極端な合理化を進めています。しかし、鉄道は公共交通機関です。要員削減を目的に鉄道・乗客の安全を犠牲にするなど許されません。日々、安全を守る運転士や車掌、駅員の仕事、専門性を軽視することも許せません。